

## ● 道徳教育推進教師と担任の連携による授業づくり

本校では独自の「主題分析シート」を活用し、学級担任と道徳教育推進教師が連携して教材研究を行っている。また、学年ごとに副担任も含めた「ローテーション道徳」を計画・実施することにより、全教師参加型の指導体制を確立している。

### 主題分析シートを用いた授業づくり

生徒にとって深い学びのある授業を実践するには、生徒の実態把握を前提に、指導する内容項目と用いる教材について深く分析し、教師と生徒がともに考えることのできる主題（テーマ）を設定することが大切です。そこで本校では、独自の主題分析シートを作成し、以下の手順で授業づくりを行うようにしています。さらに、シートに生徒実態を記せるように、シートの改善を検討しています。

①内容項目について、学習指導要領解説を読む前に、その項目が「なぜ大切なのか?」「難しさは何なのか?」「それでも大切なのはなぜなのか?」ということについて数人で話し合せて整理する。

②①の視点で学習指導要領解説の該当ページおよび教材文を読む。

③主題（テーマ）を決める。

※本授業で話し合うテーマになるよう、生徒実態に応じながら、できるだけ生徒にわかりやすい言葉になるようにしておく。

④主題（テーマ）について問題提起できそうな場面を中心場面として設定し、中心発問と予想される生徒の反応を考える。

⑤中心発問に対する予想される反応から、さらに問い返してみたい補助発問と、予想される反応を考える。

**主題分析シート**

内容項目 A(2) 節度、断判	教材名 早朝ドリブル	
なぜ大切なのか? 地道な努力⇒実力がマンする力 「適度」がポイント ⇒信頼と自信	難しさは何なのか? - 習得しにくい - 反復練習が必要 - ストレス - パフォーマンスが難しい	それでも大切なのはなぜなのか? - 習得した実力を発揮し続けること - 練習のストレスを「やるな」ストレスに変える
主題（テーマ） 生活習慣を見直そう		
中心発問 p.46 23 「このままではいけない」と思っている。なぜか?」		
◎中心発問「私、一樹が生活のリズムを整えられないままだった。どう解決しよう?」		
予想される反応 ・自分も毎日同じように生活している。・ストレスがたまっている。 ・毎日同じように生活している。成長しない日々。・高校生活は忙しすぎる。 ・他人から相手にされないように。・他人の足元を気にする人。		
補助発問① 現在の「一樹」のよくない所は何だろうか?	補助発問② 現在の「一樹」のよくなる所は何だろうか?	
・日々をなんとなく過ごしている。 ・言い訳ばかりしている。 ・自分の欲に負けている。	・「なんでか?」と悩んでいる。 ・「なんでか?」と悩んでいる。 ・「なんでか?」と悩んでいる。 ・「なんでか?」と悩んでいる。	

### ローテーション道徳の実施

複数学級ある学年では、各クラス担任が教材を分担し、クラスを入れ替えて授業を行うこともある。このようにすることで、1つの教材を複数回実践することができ、短いスパンでの授業改善が見込める。

一方のクラス担任が授業を行う場合、例えば、A組担任は、T3を担って生徒の学級状況を客観的に見取ったり、事後協議を行ったりして、授業改善につなげる。

3年A組	T 1	T 2	教材名
第10週（7/20～）	A組担任	道徳推進教師	「私を支えてくれた言葉」
第11週（7/27～）	B組担任	道徳推進教師	「背筋を伸ばして」
第12週（8/3～）	道徳推進教師	A組担任	「命見つめて」
第13週（8/17～）	副担任	道徳推進教師	「あなたはすごい力で生まれてきた」

道徳推進教師が、T1の役割を担うことにより、授業を通して学級担任等に研究の方向性を示すことができる。また、T2を担う学級担任にとっては生徒の学習状況を客観的に見取るチャンスとなる。

副担任もローテーションに組み込むことで、道徳科の授業研究が全教職員で推進するものになる。（ただし、副担任への負担も考慮し、定期的に組み込むことはしない）